

埼玉アートシアター 通信

NO. 36

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2011.11-12月号

劇作家・演出家・役者

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

【NINAGAWA 千の目】^{まなざし} 野田秀樹 × 蜷川幸雄

コンドルズ『十二年の怒れる男』／シリーズ「バッハとの対話」寺神戸 亮 インタビュー

SAITAMA GOLD THEATER

ルート99





2006年4月発足時には66歳だった平均年齢が、5年経った今年72歳になった「さいたまゴールド・シアター」。当初は年齢のことばかりが話題になりがちだったが、いまや演劇界に唯一無二の存在ばかりか、重ねてきた舞台の数々が年を追うごとに注目を集め、評判が評判を呼び、目の離せない劇団となった。「見よ、この自信に満ちた顔、顔、顔」。最新作「ルート99」のチラシ用撮影で訪れた緑豊かな東京・夢の島公園もゴールドのメンバーの多彩な表情に圧倒されていた。

INDEX

- TALK** 蜷川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目 第23回
野田秀樹×蜷川幸雄 03
- PLAY** さいたまゴールド・シアター第5回公演「ルート99」
作家・松井今朝子さんが語るゴールドの魅力 06
- PLAY** さいたまネクスト・シアター第3回公演「2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」」
蜷川幸雄 インタビュー 08
- SPECIAL** 『ピーター・ブルックの魔笛』
初演リポート(ブッフ・デュ・ノール劇場/パリ) 10
- PLAY** 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾『シンベリン』 13
- DANCE** コンドルズ 埼玉公演2012 新作『十二年の怒れる男』 14
- MUSIC** 年末年始の注目クラシック
バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》
埼玉会館ニューイヤー・コンサート2012 16
- MUSIC** シリーズ「バッハとの対話」
Vol.3 & Vol.4 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全曲演奏会
寺神戸 亮 インタビュー 18
- OTHER** この冬、さいたまで味わう伝統芸能
『新春狂言 万作・萬斎の世界』
『埼玉伝統芸能フェスティバル ～埼玉の里神楽～』
『邦楽ガラ・コンサート』 20
- CINEMA** 2011.12 - 2012.1 彩の国シネマスタジオ
2012.1 第7回 DMJ 国際ダンス映画祭 22
- REVIEW** 2011.9 - 10 彩の国のアーツ 23
- EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION 24
- THEATER BRIDGE 27

表紙:さいたまゴールド・シアター第5回公演「ルート99」 裏表紙:さいたまゴールド・シアター photo:宮川舞子 ほか 編集:(公財)埼玉県芸術文化振興財団、佐藤 優 デザイン:Yellownotes inc.
©(公財)埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15. November - December 2011 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2011年10月20日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

野田秀樹

劇作家・演出家・役者

公開対談シリーズ第23回
NINAGAWA 千の目

蜷川幸雄

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督



去る9月17日、ついにこの顔合わせが実現した。1999年に、野田さんの新作書き下ろし『パンドラの鐘』を、野田版・蜷川版の2つのバージョンで上演して演劇界を大いに盛り上げた2人は、演劇界のトップを走る同志でありライバル。気心も知れた2人の和やかな雰囲気から繰り出されるのは、ともに公共劇場の芸術監督という肩書きを持ち、世界照準で作品を発表し続けるこの2人だからこそ聞ける貴重な話ばかり。

言われた悪口は
ずっと覚えている

蜷川(以降N) 野田さんです。(拍手)緊張する？

野田(以降H) 役者として舞台に立つときは大丈夫ですが、これは素というんですか、そうなるかとだめです。特に1人でしゃべるのが。講演の依頼とかはないですか。

N 僕は基本的にやらない。

H どうしても断れない講演ってないです

か。すごくお世話になり続けている人からとか。

N この間、ある授賞式で話してくれと言われたけど、前に僕のことをばかにした批評家がいるというので、そいつがいるので嫌だといって行かなかった(笑)。

H 悪口言われたのは何年ぐらい前？

N 15年ぐらい前ですね(笑)。

H 覚えていますね、15年(笑)。でも、やっぱり悪口を言われたことはすごく覚えてますね。僕が20代で岸田戯曲賞に落選した

とき、「演劇の王道が守られた」と言われた。それを言った人のことは覚えているね(笑)。

N 高邁な理念で動く仕事もあるけれど、僕の場合、あいつの鼻をあかしてやりたいとか、外国の批評で星の数が少なかったことへの怒りとかが原動力になることが多い。決して美しくない。

H 僕は最初の作品が星1つです。ロンドン演劇界でも珍しいらしいです。1つというのは、まずない。相当悪意があったと思うね。あのときは、一からコツコツやろうと思っ

TALK



自分たちの手の届く範囲のものばかりを観るようになると、そこに小さな世界ができてしまう (野田)

で始めたのに、ものすごいものを見せるみたいにとらえられてしまったのかな。

N 僕は野田さんを推薦した文を書いたために、「蜷川幸雄が推薦したにもかかわらず」という劇評があったのではないですか(笑)。

H そうです。でも、あの星制というのはどうでもいいと思うけれど、劇評家にとってはいいかもね。あの形は、はっきりおもしろいおもしろくないを表現しなくてはいいのですから。

N 野田さんは『南へ』の評判がよくて、次の仕事はもう書いているんですか。

H 今書いてなくてはいけない時期です(笑)。

N 公演はいつなの。

H それは新作なので来年の9月です。東京芸術劇場がリニューアルオープンする最初の公演です。その間に『THE BEE(ザ・ビー)』という芝居で海外を回って、あと日本国内も5か所を回ろうと思っているので、その間は執筆できないですから、今のうちに書いておかないと。

N 外国では、作・演出・出演ってあまりないでしょう。

H それもロンドンでいじめられた理由。そんなことが人間にできるわけがないみたい。ただ、歌舞伎のときは作・演出だけです。歌舞伎は自分にとって違う世界という意識がはっきりあるので、そこに誘導してくれるとか、橋になってくれる役者がいることで成立している。勘三郎が歌舞伎という文化の翻訳者として間に入ってくれたことがすごく大きいです。ロンドンで星1つから始めたときも、キャサリン・ハンターという女優と出会って、彼女が文化的な翻訳とか、イギリスはこういうものだから、日本人はこう考えるとか、間に入ってくれたことでロンドンに入れたなと思います。

N 女性でありながらリア王をやってしまう恐ろしく天才的な女優ですが、一緒に仕事をするのは大変ですか？

H ウマが合うのか、全く大丈夫ですね。彼女のつくり方は、日本の役者さんでは見たことのないつくり方で、あれがイギリスの演劇教育のエリートやり方の1つなのかも。稽古場に最初に来て、ずっと自分の心理を言葉にしている、それがずっと続き

ます。だから時々、心理稽古というか、相手がしゃべっているときでもいいから、自分が今何を考えているのかを、全員でばばばっと言う稽古をやっていました。

N それはおもしろいかもね。

H 『ザ・ダイバー』という芝居をやったとき、彼女は少し気が狂った役でしたが、芝居が始まる前にトイレから「ばかじゃないの」とか声が聞こえてくる。気味の悪い劇場だなと思ったら、キャサリンだった(笑)。出番ぎりぎりまでトイレにいて、その中で気が狂っている。

N イギリスは、先ほどの心理的なことも含めて、スタニスラフスキー・システムが徹底している気がしますね。

若い人にみられるナルシズムの世界

N 野田さんは日本の若者の芝居も観ているでしょう。

H すごく観ているとはいええないかな。

N ある種の世界性というレベルで考えて特徴はありますか。

H その話を僕に振りますか(笑)。

N いいじゃない。何を言ってもいいから。

H 役者としての技術をどう考えるかと。僕もアマチュアから始まっていて、技術なんか要らないというしゃべりから入っています。でも、スタニスラフスキー教育を受けている役者たちを見ていると、技術とは違うけれど、絵でいえばデッサンができない画家はいないわけで、そういうものが日本の場合、基本的にできていないのでは感じつつあります。そして、蜷川さんたちの若い頃は西洋の演劇をまねた新劇というのがあって、普通の芝居という言葉があるとしたら、その頃の演技の対象は舞台上の新劇の演技です。でも、今の若い人たちが普通の芝居というときは、テレビドラマや映画の役者の佇まいといいますか、そこが根本的に変わった。なぜ大きな声を出さないといけないのかという考え方だと思う。

いけれど、ただそこに一切批評性は入らず、友達のものだけを見るというのも、恐らく自分の世界ですよね。だから、自分の世界だけでうまく渡り歩ければということなのかなと。それに影響を与えたものというのは、やっぱりモニターというもの。あるいはビデオの発達とかもあるけれど、常に自分の像を見られる。我々のころはモニターに自分が映ることは絶対になかった。もっと前のモニターもない時代は、人は鏡とか水面にしか自分の姿を見つけることはできなかったのに、今はどれだけ自分の姿を見るかと。そうするとどうしたって我々とは違う自己形成、自己像になります。そういう影響もあるだろうと。一概にそれがいいか悪いかかわからないわけで、人間というのは今ある文明と一緒に生きるしかないのだからと、そんなことも感じます。だから、性格的な問題ではないですね。それが

を役者に浴びせていたかもなとか思って、ちょっと笑えました。

N 昔はやってた？

H だって蜷川さんたちがやれてって言うていたから。

N そんなことはないよ(笑)。この前、『身毒丸』をやっていて、あまりにも無表情なので、「おまえな、黙っているとわからないんだよ。うなずくならうなずけ。おまえを愛しているやつじゃないと、おまえの内面なんか見やしないぞ、このやろう！」と(笑)。

H そうだよな。本当にそう言いたくなりますよ。

N これで終わりというのもあれですが、いいかな。

H いいじゃないですか。

N 皆さん、どうもありがとうございました。

H ありがとうございました。

アスパラガスのような若者たちに、他人も共有できるような必然性があるのか探りたい (蜷川)



でも、蜷川さんや僕もどちらかというと上寄りの世代なので、舞台上でいつでも大声が出せることは役者にとって当たり前のことで、そういうこと自体が違うと思います。

あと僕はばかばかしいものが好きで、それでいえば日本の若い人がつくっているものはおもしろいと思う。ただ、演劇はそれだけではないから、そこを要求しない観客や演出家にとっては、魅力がないものが多いかもしれない。

N 大学で授業をやっていて、「君たちはどういう芝居を観るの？」と聞くと、友達がつくった芝居を観に行くと。先行する世代の芝居なんかはほとんど観に行かないわけです。Twitter仲間とかそういう友人を当てにして、何か小さなサークルをつくっているという感じがします。

H 自分たちの手の届く範囲のものばかりを観るようになると、そこに小さな世界ができてしまう。今、演劇だけではなくて、若い人の中に起きているある現象というのはちょっとナルシズムの世界で、自分がどう見えているかとか。もちろん役者という仕事はそこ関係しているのは間違いな

当たり前になっている気がする。恐らく普通の芝居をテレビなんかで見た芝居だと思っているのも、確かにそれしか見てないから、ということです。

N ここには「さいたまネクスト・シアター」という若者の集団がありますが、10代、20代はじめのすごく若い世代を新メンバーにいれた。言ってみれば、何を考えているのかわからない無表情な世代です。「返事をしろよ」と言わないと返事をしないアスパラガスのような若者たちが、演劇の仕事の中で一体何が露呈されて、彼らに他人も共有できるような必然性があるのかということを探りたくて、一緒に仕事をしています。少し揺らぎ始める人、全然揺らがないで同じままの人が依然としている。おもしろいですよ。

H 実はこの前、多摩美術大学で僕の『半神』という芝居をやっていて、後半の10日間ぐらい稽古場に顔を出したの。無表情な若者とかが一瞬懸命やっていたけれど、そのうち何か20代のときのように腹が立ってきて、久しぶりに声を荒げましたね。でも、昔はそういう荒げた罵声



野田 秀樹 Hidetaka Noda

1955年 長崎県生まれ。劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。東京大学在学中に劇団「夢の遊眠社」を結成。92年、劇団解散後、ロンドンに留学。帰国後の93年に「NODA・MAP」を設立。以後、『キル』『パンドラの鐘』『オイル』『THE BEE』『ザ・キャラクター』『南へ』などの話題作を発表。中村勘三郎丈と組み、歌舞伎『野田版 研辰の討たれ』などの脚本・演出も手掛ける。演劇界の旗手として国内外を問わず、精力的な活動を展開。2009年名譽大英勳章 OBE受勳。2009年度朝日賞受賞。2011年紫綬褒章受章。2012年1月～6月『THE BEE』WORLD & JAPAN TOUR公演予定。



作家・松井今朝子さんが語る ゴールドの魅力

公演の度にその個性をいかに発揮し、今までにない演劇をつくって観客を魅了してきた「さいたまゴールド・シアター」。作家の松井今朝子さんも、前回公演の『聖地』ではじめてゴールドをご覧になり、その舞台に魅了されたお一人。演劇への造詣が深く、鋭い批評眼をおもちの松井さんをも唸らせたゴールドの魅力とは。前回公演を振り返りながら語っていただいた。

PROFILE | KESAKO MATSUI



まつい・けさこ ©1953年京都府生まれ。南座にほど近い環境で育ち、歌舞伎の魅力にとりつかれる。早稲田大学大学院文学研究科演劇学修士課程修了後、松竹株式会社に入社、歌舞伎の企画・制作に携わる。同社退職後、武・武智鉄二に師事して、歌舞伎の脚色・演出・評論などを手がける一方、歌舞伎啓蒙媒体の監修に積極的に取り組む。97年、『東洲しゃらくさし』で小説家デビュー。同年、『仲蔵狂乱』で第8回時代小説大賞、2007年、『吉原手引草』で第137回直木賞を受賞。今年度末にデビュー作『東洲しゃらくさし』の文庫が再刊される。

人生ラストの希望が見いだされる舞台

文＝松井今朝子【作家】

さいたまゴールド・シアターの劇団員募集をチラシが何かで見たときは、てっきり蛭川さんがカルチャー教室みたいなものを始めるんだろう、くらいにしか思っていなかった。その後NHKのドキュメンタリー番組で、想像をはるかに超えた厳しい稽古場風景を見て蛭川さんのホンキ度を知り、認識を新たにしたものだ。旗揚げ公演は「最近の蛭川さんの中では一番いいお仕事かもしれませんよ」と演劇ジャーナリストの徳永京子さんから聞かされて、見損なっ

たのがとても悔やまれた。にもかかわらず、なかなかチャンスがなくて、初めてナマの舞台を拝見したのはようやく去年の秋の第4回公演だった。その公演では気鋭の劇作家、松井 周の書き下ろしによる『聖地』が上演された。ストーリーは少子化の果てに高齢者の安楽死が合法化された日本の近未来に設定。日本人は皆ある年齢に達すると自ら安楽死ができる権利を得られるが、それは一方でなるべく早い死を選んで健康な臓器の提供者になる

さいたまゴールド・シアター第5回公演

『ルート99』

開幕まであとわずか！
今度の舞台は、「異国の軍事基地のあるわが国の島」。
基地とともに暮らす人々の日常に潜む普遍的なテーマとは？



ゴールドが社会的に大きく注目を集めるきっかけとなった第1回公演『船上のピクニック』を書き下ろした岩松 了が、再び新作を書き下ろす。本作の舞台となるのは、「異国の軍事基地のあるわが国の島」。国道「ルート99」で起こる謎めいた事件をきっかけに、島民たちの基地に対する様々な思いや考えが浮かび上がる。岩松が特異なこだわりをみせる人間関係の描写が、基地という新たな題材を得てどのように発揮されるか。観客は、破格の登場人物たちの関係から人間心理を引き出す岩松劇作の妙を目の当たりにするに違いない。平均年齢72歳、団員数42名の、実人生に基づいたリアルな演技と身体表現で唯一無二の演劇を作り上げているゴールド、そして日本演劇界を代表する劇作家・岩松 了と演出家・蛭川幸雄が、高齢化社会を生きるすべての人へ、かつてないリアリティと実験性にあふれた演劇を投げかける。

【あらすじ】
基地の中に一軒の家があった。その家には、神のお告げを聞くことができる「ミラ」と呼ばれる老女と、若い姉妹が住んでいた。ある日、基地のフェンスに沿って島を南北に貫く国道、通称「ルート99」で島の名産がバラまかれるという事件が起こる。翌日警察は商品を港へ運んでいたトラックの運転手を逮捕する。と同時に一人の映写技師が消息を絶つ。基地内の映画館で働くそのタチバナという若い男は、ミラの家で暮らす姉と密通しているのを基地内労働者に目撃されていた。タチバナに何があったのか……。事件について憶測が飛び交う中、島では本土から呼んだ劇団による演劇公演の準備が進められようとしていた。

さいたまゴールド・シアター第5回公演『ルート99』

日時：12月6日（火）～20日（火） 会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
作：岩松 了 演出：蛭川幸雄
出演：さいたまゴールド・シアター
川口 覚、周本えりか、深谷美歩（さいたまキッズ・シアター）
チケット（税込）：一般 3,000円 メンバーズ 2,700円

12月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
14:00															
18:30			休演				休演				休演				

上段左：第2回公演『95kgと97kgのあいだ』 上段中：第3回公演『アンドゥ家の一夜』
下段左：第4回公演『聖地』 下段右：第1回公演『船上のピクニック』 Photo:宮川舞子

ことが求められることをも意味していた。つまりそこにはP.D. ジェームズの『人類の子供たち』やカズオ・イシグロの『わたしを離さないで』といった世界的名作を彷彿とさせる趣向で、もはや長寿が期待されなくなった近未来における人間の絶望的な状況が淡々とシニカルに綴られていたのだった。折しも現実には高齢者所在不明事件が次々と明るみに出て、現在ですらに高齢者がいないがしろにされつつあるかを肌で感じられた頃だったから、ある意味で実にタイムリーな戯曲の上演でもあった。しかしながらそうした戯曲を平均年齢71歳、最高齢84歳という劇団員がナマで演じるとなれば、リアリティーがあり過ぎず、観ているほうはきっと辛くなるのではないかと、という懸念が当然ながら生じる。ところが実際はそうならず、むしろ涙あり笑いありの上質なウエルメイドプレイに触れたときと同じような爽やかな感動に包まれたことで、私は大いに驚いてしまったの

である。安楽死の合法化で自ら死ぬ時が選べる権利を獲得した人びとは、常に死の影を真正面から見ずえることで、自らの本心と向き合っていく。長年連れ添う夫でも最期は共にしたくない妻があれば、一方で長年打ち明けられなかった恋心を告白して堂々と挙式をするカップルもいる。少女の昔に戻ったお婆さんがいれば、青春時代に帰って社会闘争ごっこを始めだすお爺さん軍団もいて、各自が本心をさらけだし、まさに人生のラストでドラマチックな日々を生きる。そこには絶望的な状況の中で最後に残された希望の光のようなものが明るく見いだされたのだった。それはブラックユーモアに満ちたラジカルな戯曲から叙情性を最大限に引きだした蛭川演出の勝利であると同時に、劇団員ひとりひとりが個性的な存在感を放つことでもたらされた、他の舞台では決して得られない感動だったともいえる。

映画にしろ、舞台にしろ、小説にしろ、およそ虚構には現実の裏打ちがなくてはならない。虚構世界の担い手である俳優も同様だ。かりに幼くしてその道に入った古典芸能の役者たちでも、技術は稽古を積みばなんとかなるが、舞台で本当に自分の個性を発揮できるようになるには、実人生におけるさまざまな経験が必要となる。55歳以上の参加しか認められないゴールド・シアターのメンバーは、いうまでもなくそれぞれが地に足のついた実人生をたっぷり送ったことで十二分に裏打ちされた個性を輝かす存在といえるだろう。セリフや所作の巧拙に多少の差はあっても、ひとりひとりの個性がそれを上回って、舞台に最も必要なリアリティーをもたらしている。そしてなまじ職業的に長く続けている俳優よりも、それぞれ舞台における佇まいがはるかに美しいことに、私は何よりも深く心を打たれたのであった。



INTERVIEW 蜷川幸雄

さいたまネクスト・シアター×こまどり姉妹!! 蜷川幸雄が新たにたくらむ『ハムレット』とは?

前回公演『美しきものの伝説』が高い評価を得た「さいたまネクスト・シアター」。待望の第3弾は、なんとシェイクスピアの王道に挑むことが決定した。題して『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』。さらに衝撃的なのは、チラシに躍る【特別出演こまどり姉妹】の文言だ。昭和歌謡の伝説的歌姫を巻き込んで、一体何をたくらむのか? 蜷川幸雄芸術監督の真意を探った。

取材・文=市川安紀

こまどり姉妹との仕事は、 演出家になった時からの念願だった

photo: 宮川舞子

テーマなき時代を生きるために

—日本の創作劇に挑戦してきたネクストが『ハムレット』とは意外でした。

これまで上演した『真田風雲録』も『美しきものの伝説』も1960年代の作品で、彼らより少し前の世代の演劇です。さらに自分たちの身体が持て余すような言語と格闘することで、今を生きている姿が反映できる戯曲はないかと考えた時に、そうだ、シェイクスピアだ!と。『ハムレット』を演出するのはこれで7回目ですが、謎が残る戯曲だから、いくらやってもやり残した感覚があるんです。時代と俳優によって、まったく違う作品になる。ハムレット、レアーティーズ、フォーティンプラスという3人の青年たちは、みな父親を失っています。父親不在の中を、どう生きるのか。現在のこの世界が、父親=大きなテーマを失った時代だと考えれば、非常に現代的な素材たりうと思ったわけです。

—創設2年目で『美しき〜』が高い評価を得たことへの危機感がありますか。

それはもちろん。思った以上の評価を受けてしまったから、もっと先へ飛ばなきゃいけないなど。それでハードルを高くしました。パーに足を引っかけるかもしれないけどね。無表情で自己主張がハッキリ分からない若者たちが、この題材を元にどういう演技をしていくのかを探してみたい。今回は老け役もすべてネクストのメンバーでやっていきます。

—今年新たに行ったネクストのオーディションでは、その「無表情に見える若者」をあえて選んだそうですが。

嗅覚のようなものですね。無表情、無感動で実体がちっとも伝わってこない若者たちを否定するのではなく、時代が要求する必然性が何かあるだろうと。そこを演劇が取り込まないでいいわけがない。『血の婚礼』という作品で彼らの何人かと仕事を

してみたら、彼らなりに他者と交わってましたよ。詰まってるドブかと思ってたけど(笑)、水はちょろちょろ流れてたって感じかな。コミュニケーションのスタイルがぼくらとは違うし、欲望の在処が違うのかもしれない。

こまどり姉妹に拮抗できるか

—自己主張が見えにくいネクストと、強い個性と自己主張を持つゴールド・シアターと。両極端ともいえる彼らとの共同作業は大変な労力のはずです。力を注ぐ原動力は何ですか。

まったく違う価値観を持つ人たちと仕事をすることで、自分が職業的にやっている仕事が正しいのか、もう一つ目で照らし出そうとしていると思うんですね。その特徴がこまどり姉妹です。小さい頃から貧しさの中に身を置いて、三味線片手に姉妹で流しの歌手としてお金を稼いで生き抜いて

きた。高度成長の中でそうした前近代的な姿は消えたと思っていただけ、今回の「3・11」で、過去だと思っていたものが過去じゃないかもしれないということが分かりました。被災地の体育館を見れば、旧世代の共同体が確実に存在している。置き去りにされたかに見える民衆の姿の象徴が、こまどり姉妹だと思うわけです。ぼくらの演劇は、こまどり姉妹の3分間の歌声に匹敵するほど内容が濃いのだろうか。あるいは、人生の底辺からは上がってきた人たちのまなざしに、我々の舞台は耐えられるのか。そこをちゃんと点検したい。

—彼女たちはどう関わるのですか。

振り袖を着て三味線を持ったこまどり姉妹が、持ち歌を歌いながら舞台を突っ切ります。その後芝居が続けられるのか、あるいは歌声の実体に対して、我々の現在はそれをきちんと受け止めた演技になっているのかを問いたいわけです。

—狂言回しのような役割になるのかとも思いましたが違うんですね。

芝居の内容にはまったく関係ありません。実はこれは僕が演出家になった時からずっと思っていたことで、40年越しの企画なんですよ。自分の親世代や生活者たちのまなざしにも耐えられる舞台を作りたいという思いが、常にあった。自分を問いつめ、検証するために、こまどり姉妹の歌が必要なんです。今こそ、その時期だと。毎日こまどりさんのCDを聴きながら稽古場に通ってますよ(笑)。

この劇場ではスターの出る芝居もやるけれど、こぼれ落としてきたものも問題意識として持ちながら、両面から攻めていくものにしたい。でも俳優たちは大変だよ。あのヒョロヒョロたちに、こまどり姉妹の

歌に拮抗できるだけの豊かさや根拠があるのかを試されるわけだから。でも、だからこそ踏み出してほしい。

—震災以降、蜷川さんの舞台には「3・11」への何らかの目線が感じられます。作り手の意識に変化はありましたか。

やっぱり影響はありますね。メッセージを出すつもりはないけど、演出する時の自分の心に反映はしていると思う。ただ、ぼくらは演劇の魅力を発信し続けるほかにな

いと思うんです。あの手この手でお客さんに劇場に来ていただくという姿勢を保ちながら、語るべきことは中身で語る。どんなまなざしにも耐えられる多層的な作品を作っていきたいということだけでいい。幸いにしてネクストは早い段階で評価を得たわけだけど、これで評価を壊すかもしれない(笑)。壊して作って、壊して作って。それが自然でしょう。何しろこまどりさんたちが出てくれますし、今から稽古が楽しみです。



こまどり姉妹とは?!

若い世代にはあまり馴染みがないかもしれないが、蜷川をはじめ、ある年代から熱い支持をうけ続ける昭和のスター代表「こまどり姉妹」。昭和30年代、同じく双子の「ザ・ピーナッツ」と人気を二分した歌謡界伝説の双子デュオだ。貧しい一家に生まれ、酒場から酒場へと流しの生活をして身銭を稼いでいた長内栄子・敏子の2人は、『浅草姉妹』で芸能界入り。ヒット曲を次々と世に送りだしたスターの名を不動のものとするも、ステージ上で熱狂的なファンに刺され

たり、末期癌宣告を受けるなどの悲劇が襲う。しかし、2人は苦難の連続を生き抜き、73歳になった今も三味線片手に振り袖姿で、全国津々浦々のステージに立ち続ける。蜷川がリスペクトしてやまないこの2人が、蜷川たつへの希望でネクストの舞台に特別出演する。彩の国シネマスタジオ(1月)で、彼女たちのドキュメンタリー映画『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』の上映も決定! いつも笑いと涙に包まれるこまどり姉妹のステージ。そのエンターテイナーぶりは必見だ!

さいたまネクスト・シアター第3回公演 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』

日時:2012年2月20日(月)~3月1日(木) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)
*大ホール舞台上の特設客席のため、客席及び椅子の形状が通常とは異なりますのでご了承ください。
客席形状が決定次第、ホームページにてお知らせいたします。

演出:蜷川幸雄 作:W.シェイクスピア 翻訳:河合祥一郎 出演:さいたまネクスト・シアター/こまどり姉妹(特別出演)

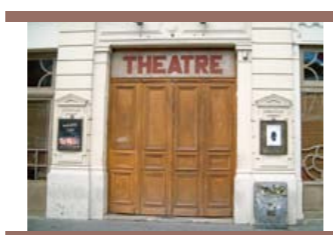
チケット(税込):全席自由
一般4,000円 メンバーズ3,600円
発売日:一般11月26日(土)
メンバーズ11月20日(日)

	2月	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	3月	1
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

『ピーター・ブルックの魔笛』

シンプルさと豊かさが同居する 魔術的舞台

モーツァルトの《魔笛》を翻案した『ピーター・ブルックの魔笛』は、2010年11月、ブルックの拠点、パリのブッフ・デュ・ノール劇場で幕を開けた。舞台上におかれた数十本の竹の棒と1台のピアノ、7人の歌手と2人の俳優によって、これまでにない親密さにあふれた本作は、圧倒的な評判で世界24ヵ国を巡演中。これまで何度もブルックに取材をし、その舞台を観続けてきたジャーナリストの佐藤友紀さんに、初演の様子をレポートしていただいた。



ブッフ・デュ・ノール劇場入口

■ パリ公演レポート 取材・文=佐藤友紀 [ジャーナリスト]

子どもたちも楽しめる ブルックの舞台

建物の外側に地味に「THÉÂTRE」と書かれていなかったら、誰もそこが世界的に有名な劇場ブッフ・デュ・ノールだとは気づかないだろう。パリ北部、地下鉄ラ・シャペル駅傍のその界隈は、長い間そこを本拠地にしていた演出家ピーター・ブルックの舞台の俳優たちのように、様々な国からの移民が行き交うエネルギッシュな場所。と

ころが一步内に入ると、何とも言えないマジカルな空間が広がっている。テラコッタ色というより赤に近い壁は、かつてオペラ『ペレアスの印象』で仕つらえられた四角い池に反射した照明のゆらめきで劇をより幻想的なものにしていたし、そもそも客席の最下段のベンチと同じ高さにある舞台というか地面で展開されるストーリーは、手を伸ばせば容易に届きそうな距離感で、我々観客により親密な絆を提供してくれる。

で、『ピーター・ブルックの魔笛』である。舞台上には数ヶ所に分かれて30本ほどの各々太さの異なる竹の棒が突き立てられている。そして、まず驚かされるのが1台のピアノしか置かれていないこと。先述した『ペレアスの印象』だって、ピアノは2台あったぞ、と思ひ返し、でもその2台のピアノが奏でる音楽のとてつもなく豊かだったことにも記憶を新たにして、期待感でドキドキしていたら……前奏の最初の和音の連打にまずやられてしまった！ かつてブルックは「良い舞台作品というのは、それを観る人間各々のレベルで存在する。だからこそ、上演時間が9時間の『マハーバーラタ』も子供たちがニコニコ笑って観てくれるんですよ」と語っていたが、ピアノだけで鳴らされる件の和音は、これまで自分

が体験してきた数々の《魔笛》の記憶を一気にフラッシュバックしてくれるのだ。それはもちろん今日が《魔笛》初体験の人にも、これから何かが起こりそうとワクワクさせるに足るもので、紹介当初から日本語には訳されなかった『サウンド・オブ・ミュージック(音楽の響き)』という言葉の意味を改めて教えてくれるほどである。

シンプルなのに とことん豊かな《魔笛》

そのうち舞台上に2人の若い男が現われ、音楽と共に闘いを繰り広げる。いわゆる普通のオペラの《魔笛》なら、主人公のタミーノと彼に襲いかかる大蛇という記号が明らかなのに、ブルックはそんな過度な演出法はとらない。筆者は、歌声が聞こえてくるまではどっちがタミーノかわからなかったぐらいで、でもそうした思いがけない緊張感が、《魔笛》というオペラの新たな魅力を引き出していると言える。

いや、こんな表現の方があっていくかもしれない。いかにモーツァルトの名作オペラと言えども、正直に告白するとふと集中力が途切れる箇所があって、筆者の場合、それはザラストロの神官たちのやりとりだった。いくら運命の恋人タミーノとパ



Photo:Pascal Victor/ArtComArt

ミーノが覚悟を試される、あるいはモーツァルトもメンバーだったというフリーメイソンの教義を象徴していると説明されても、う〜むここは観るのも聴くのも苦行だなと密かに思っていたら、ブルックはバツサリ省略。まあ前半に登場する夜の女王の3人の侍女は、競い合ってタミーノを狙っているというコミカルでエロチックなくだりにファンも多いが、これだけ簡素な舞台にはうさ過ぎるのかもしれない。それはタミーノに絡む3人の童子についても言えて、近年はこの童子たちの役を侍女役の歌手たちがかけ持ちで歌うヴァージョンもあるけれど、『ピーター・ブルックの魔笛』ではこれらの3人+3人を省略することで、主要な登場人物の比重がより大きくなり、加えてそれまで意味ありげに扱われていた「3」という数字の呪縛から逃れることにも成功した。

もっとも、侍女達がいなくなることで、

《魔笛》のアリアとしては一番人気の2曲を披露する夜の女王の存在感が薄れるのでは、と心配する方もいるだろう。実は当方もそうだった。ところが実際は逆で、夜の女王と娘パミーナ、そして父親と解釈されることもあるザラストロの関係が明確に見えてきて、本来の壮大なテーマの他に上質な家族劇のような側面も楽しめる。一説によればタミーノは日本の皇子で、NYのメトロポリタン歌劇場で上演されたジュリー・テイモア演出版などは、衣装はもちろん、ヘアメイクまでそれを意識したものだったが、ブルック版の無国籍な衣装、そしてムーブメントの方がよりこちらの想像力を広げてくれると言えそうだ。

こうして物語が進むうちに、伴奏はピアノが1台だけということをおぼろげに、人間の声そのものがモーツァルトの音楽を奏でるのに最もふさわしい域まで到達しているから。より魔笛のメロディに私た



Photo:Chantal Depagne

ちが集中してしまうのも、シンプルなのにとことん豊かなこの舞台ならばこそ。そのうち、単なる装飾と思われていた竹の棒の、その特質を生かした思いがけない動きに驚かされたり、けって淡々とは転がっていかない内容にほっと感心してみたり。そうそう、人気者ババゲーノとババゲーノのコミカルなデュエットにはお年寄りから子供まで大喜びだったが、子供時代からブルックの舞台に触れられる彼らに軽く嫉妬してしまったことを白状しよう。



2010年初演時の舞台より Photo:Pascal Victor/ArtComArt



佐藤友紀がひも解く

ブルックの演劇観・創作術

20世紀を代表する演出家の一人、ピーター・ブルック。
という、どうも大仰すぎて、あまりにも遠い世界の人と感ずるかもしれないが、ブルックの考えは、彼の創る舞台と同じでいたってシンプル。
劇場は、日常を逃れてやって来る人々が生命の源を見つける場所でありたい。
そんなブルックの演劇観・創作術をひも解くエピソードをここに紹介。

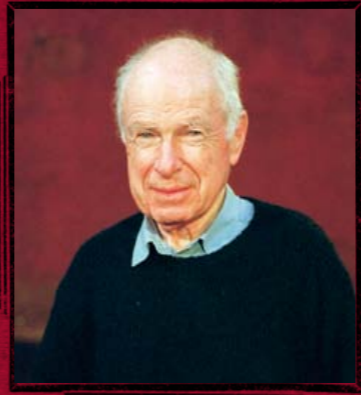


Photo: Pascal Victor/ArtComArt

その1 最初から「何もない」わけではない

ブルック演出の代名詞のようなシンプルな舞台装置。でもブルック本人によると、「最初から石が一つだっただけじゃないんですよ(笑)」とか。「最初には人並みに舞台上にいろんな物を置いたり、吊るしたり。でもそのうち、「これ必要ないな」「これも邪魔だ」と取り払ううちに、どんどん寂しくなっていくのです(笑)」。もちろん「寂しい」はブルック一流のジョークだ。今回は竹の棒の意外な働きに注目!

その2 音楽は、後で

以前、同じモーツァルトの『ドン・ジョバンニ』を演出した時、まずいろんな出身の歌手たちに、自分の母国語で台詞と歌詞を言わせ、確実に演じる人物の感情を身体に入れてから、初めて歌の稽古に進んだという。ちなみにこの方法、トレパー・ナンなど英国の演出家がミュージカル演出の際にも採り入れているとか。

その3 モーツァルトは好きだけど……

30歳そこそこでバイロイト音楽祭の『ニーベルングの指環』演出で名をなしたパトリス・シェローいわく、「主宰のワグナー一家の人々は、当初僕より世代が上の有名な演出家に頼みたかったらしい。ペーター・シュタインとかピーター・ブルックとかね。でもブルックはハナからワグナーには興味がないと断ったそうだよ。『カルメンの悲劇』のビゼーにドビュッシー、でもモーツァルトが一番好き?

その4 少人数でも『ハムレット』が上演可能な理由

来日公演も行った『ハムレットの悲劇』の前に、出演者7人の『キ・エ・ラ!? (そこにいるのは誰だ!?)』を上演。劇中劇のシーンでは、芝居を観ている王クロードの手にハムレットが無理矢理とって、先王ハムレット役の役者の耳に毒を注ぎ込ませる演出を見せた。この時は墓掘り人夫のシーンで幕。「どんなに名作でも私にとってはラストのフォーティンプラスのくだりは必要ないと思われるのですよ」とカットも大胆。

その5 ブルックは身軽でいたいと考えている

ブルックと長年仕事をしてきた脚本家のジャン＝クロード・カリエールいわく「ピーターは、旅を続けるには一度重い荷物を下ろさなければならない、と考えているんだ。彼にとっては、称賛も権威となることも重い荷物なんだよ。だから本国の英国を離れて、活動の本拠地をパリにしたんだし」。ある時2人でこれからやりたい作品を数えてみたら「10作以上だった」。

その6 マジカル・モーメントが起きるのは

伝説の演出家だけに、ブルックの稽古風景、創作の現場を見たいと渴望する人間は多い。「でも、リハーサルの時こそ、必ずマジカルなことが起こるんです。それも誰にも覗かれていない時に。もしかしたら俳優たちは妖精なのかもしれませんね(笑)」

その7 ブルック演劇をより豊かなものにするのは?

「私の舞台を観て、何もないところに白い花を見る、見えないドアが開いたのを感じる……それはすべて、あなたの愛です。あなたの愛こそが、私の舞台をより豊かなものにしてくれるのですよ」。愛にあふれた舞台だ!

『ピーター・ブルックの魔笛』 ※ドイツ語(歌)・フランス語(台詞) 上演<日本語字幕付>

日時: 2012年3月22日(木)~25日(日) ※上演時間: 約90分(途中休憩なし)
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出: ピーター・ブルック 原曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
翻案: ピーター・ブルック、フランク・クラウチック、マリー＝エレヌ・エティエンヌ
チケット(税込): 一般 S席8,000円/A席5,000円/学生A席3,000円
メンバーズ S席7,200円/A席4,500円
発売日: 一般12月3日(土) メンバーズ11月26日(土)

2012年3月	22	23	24	25
曜日	木	金	土	日
15:00			●	●
19:30	●	●		

【関連企画】『ピーター・ブルックとシェイクスピア展 開催中!』

日時: 10月21日(金)~2012年4月15日(日) 10:00~17:00(火・金は19:00まで) ※休館日を除く
会場: 早稲田大学坪内博士記念 演劇博物館1階シェイクスピア室

【STORY】

大蛇に追われ森に迷い込んだ若き王子タミーノ。
すんでのところ助かったタミーノは、夜の女王より一人娘パミーナが悪者にさらわれ捕らえられていると聞く。パミーナの肖像画を一目見て恋に落ちた王子は女王より魔法の笛を授かり、鳥刺しの青年ババゲーノと共にパミーナ救出の旅に出る。パミーナを捕らえているザラストロとは何者か。タミーノは恋する相手を救うことができるのか――。

NINAGAWA × SHAKESPEARE

蜷川シェイクスピア最新作は『テンペスト』(第6弾)『ペリクリーズ』(第12弾)『冬物語』(第21弾)に続く

ロマンス劇『シンベリン』!



阿部 寛 大竹しのぶ 窪塚洋介 勝村政信 浦井健治 吉田鋼太郎 鳳 蘭

『シンベリン』の上演をもって、蜷川幸雄はシェイクスピアの後期ロマンス劇の4作品すべてを演出することとなる。ロマンス劇は「悲喜劇」と説明されることも多く、登場人物が家族の離散や再会、遭難など幾多の試練を乗り越え、波乱万丈の末に幸せな大団円を迎えるというのが特徴。筋としてはいささか都合主義的で強引なところもあり、蜷川は『テンペスト』では佐渡の能舞台で地元の人々が芝居を上演するという枠組みを、『ペリクリーズ』では戦争で傷ついた者たちが一座を組んで芝居を見せるという枠組みをつくり、『冬物語』では一転、こうした枠組みを設けず、神話的な時間の流れと空間を作り出すことで、これらのおとぎ話のような物語を成立させてきた。蜷川は今回『シンベリン』に初めて挑む。蜷川の手にかかって、このめくるめくドラマに私たちはどう引き込まれていくのか、まずはそこを楽しみにしたい。

また、注目すべきはキャストの顔ぶれ。登場人物の関係や思惑がいくつも交差するこの戯曲は、息をもつかせぬストーリー展開のうえに、誤解、嫉妬、裏切り、後悔、そして償いと、複雑な心理表現を俳優に要求する戯曲でもある。この難しい役どころを、蜷川が信頼する魅力的なキャストたちが演じる。『近松心中物語〜それは恋〜』『道元の冒険』『コースト・オブ・ユートピア』に続き、4作目の蜷川作品となる阿部 寛。『身毒丸』で新たな撫子像を作りだした大竹しのぶは、彩の国シェイクスピア・シリーズでも『マクベス』『ヘンリー六世』で数々の伝説を残している。そして、窪塚洋介、勝村政信、浦井健治、吉田鋼太郎、鳳 蘭と、いずれも実力派の顔ぶれがそろった。『シンベリン』は、はやくも来年5月のロンドン公演が決定。ロンドンオリンピックに伴い、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーが開催する「ワールド・シェイクスピア・フェスティバル」にアジア勢から唯一蜷川が招待を受けて参加する。これまでに、彩の国からいくつもの作品が海外へと渡り、高い評価を得てきた。日本のみならずイギリス ロンドンでも台風の目となるに違いない蜷川シンベリンの上演が、早くも待ち望まれる。

What's ワールド・シェイクスピア・フェスティバル?

北京オリンピック・パラリンピック終了後の2008年より、2012年に向けた4年間の文化芸術プログラム「カルチュラル・オリンピック」の一環として開催されるのが、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)による「ワールド・シェイクスピア・フェスティバル」。2012年4月から9月まで開催し、世界中でシェイクスピアがどのように上演され、親しまれているかが披露される。RSCの芸術監督マイケル・ボイド演出作品の他にも、バグダッドのイラク・シアター・カンパニーが舞台を現代のイラクに置き換えた『ロミオとジュリエット』を、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロのコンパニア・ブフォメカニカが、サーカスと演劇を融合させた『リチャードIIIに2本のバラを』(仮題)を上演。蜷川幸雄演出『シンベリン』は、5月29日から6月2日、バービカン・シアターで上演される。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンベリン』

日時: 2012年4月2日(月)~21日(土) 会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出: 蜷川幸雄 作: W.シェイクスピア 翻訳: 松岡和子
出演: 阿部 寛、大竹しのぶ、窪塚洋介、勝村政信、浦井健治、吉田鋼太郎、鳳 蘭 ほか
チケット(税込): 一般 S席9,500円/A席7,500円/B席5,500円/学生B席2,000円
メンバーズ S席8,600円/A席6,800円/B席5,000円
発売日: 一般2012年1月14日(土) メンバーズ2012年1月7日(土)
※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。

2012年4月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:00																				
18:30																				

【STORY】

ブリテン王シンベリンは、王妃の連れ子クロートンと結婚させようと考えていた一人娘のイモーゼンが、紳士ボステュマスと勝手に結婚したことに激怒する。追放され、ローマへと渡ったボステュマスは、そこで出会ったヤーキモーとふとしたことから妻の貞節を賭ける。ヤーキモーは彼女のプレレットを盗み出し、それを見せられたボステュマスは妻の不義を信じ、召使いに妻の殺害を命じる。誤解を解きローマへと向かうイモーゼンだが、道中、迷い込んだ洞窟で一人の老人と2人の王子に出会う。その頃、ブリテンとローマは戦闘状態に突入り、妻への復讐を後悔するボステュマスは、ローマ軍の一員として戦いに参加する――。

CONDORS NEW WORK コンドルズの埼玉公演新作は、 『十二年の怒れる男』!!

ダンスカンパニーであるにもかかわらず、その舞台はダンスのみにあらず。映像にコント、楽器演奏に人形劇…と、何でもありの爆発力とパワーで、笑いと元気をもたらしてくれる。そんなコンドルズの公演が、2012年の新年早々に決定。毎回、斬新なアイデアとユニークで大胆な構成で「埼玉ならではの新作」を披露してくれている彼ら。今回の公演タイトルは『十二年の怒れる男』。果たして、その言葉に込めた新たな企みとは何か?!

取材・文：望月リサ [ライター] Photo: 宮川舞子



— 平原慎太郎さんやスズキ拓朗さんという、ダンス経験値の高いメンバーが加わり、総勢15名となったコンドルズ。これまでも踊れるメンバーはいましたが、新メンバーの加入で、さらにアグレッシブさを増しているような気がします。

勝山康晴 これまでも停滞してたつもりは全然ないんだけど(笑)。ただ、客席からそう見えるってことは大切なことかもしれない。

近藤良平 うん。ただ、確かに結果的にはそうんだけど、2人の場合、“踊れるかどうか”はそんなに重要じゃなかつ



たんだよ。一番重要なのは、年齢差とか関係なく並列の関係でいられるかどうかだったりするからさ。下手に出られると、こっちは面倒みなくならない気がするでしょ。そういうのが嫌なわけ。ま、そう言いつつ、拓朗がタメ口をきくと怒ったりするんだけど(笑)。

勝山 基本的には、良平さんが気に入った人っていうのが基準で…
山本光二郎 良平に、何かしら創作意欲を沸かせる存在っていう、ね。
近藤 とくに拓朗はそうかもしれないな。



スズキ拓朗 (笑)ありがとうございます。
藤田善宏 あとさ、うちらは近藤良平の振付けで育ってきてるけど、慎太郎や拓朗はそうじゃないでしょ。そのふたりが踊ってるのを見ると、やっぱり新鮮な感じがするんだよ。
近藤 フレッシュなんだけど、でももうずっと一緒にいるみたいな馴染み感もあったりして。



スズキ 僕も毎日が新鮮でびっくりすることばかりです。スタッフさんも含めて皆がすごく楽しそうにやっているのが、本当にいいです。

勝山 拓朗は人を褒めるのが本当に上手いんだよ。

山本 出世コース(笑)!

スズキ (笑)でも、そう言っていたら、僕がコンドルズに新しい風とか、新しい何かをパンチとして入れてい

PROFILE

コンドルズとは男性のみの学ラン姿でダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを展開するダンスカンパニー。20ヶ国以上で公演し、N.Y.タイムズ紙も絶賛。NHK総合「サラリーマンNEO」内の「サラリーマン体操」、NHK連続TV小説「てっぺん」オープニング、NHK教育「からだであそぼ」内の「こんどうさんちのたいそう」、野田秀樹作・演出NODA・MAP「パイパー」に振付出演。劇団EXILEにも客演。櫻井翔主演、三池崇史監督作品「ヤッターマン」の振付なども担当。主宰の近藤は朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。「AERA」の表紙にもなり、TBS「情熱大陸」、NHK「スタジオパークからこんにちは」、映画「プタがいた教室」、サントリーポスTVCMなどにも出演。バンドプロジェクト・THE CONDORSは日産「NOTE」、カルピス健康茶王などに出演、バンド名をストライクに新生し、活動中。



けるようになればならなとは思ってます。
—メンバーの年齢層が広がったことで、ダンスシーンのバリエーションが広がってきているようにも感じるのですが。

勝山 そこは重要だよ。コンドルズがスタートした頃は、20～30代のバリエーション豊かな男たちだったけど、ある程度一緒にいると似てくるわけ。そんななか、世代間ギャップのある新メンバーが入ってきたことで、いい意味で多様性が生まれたなとは感じてる。生まれた時から携帯電話がある世代と、光二郎さんみたいに30歳くらいで持った人間…それくらい違う人生を歩んできた人間と一緒に舞台上立つっていいと思う。

近藤 それに正直、ふたりに触発されることもあると思う。慎太郎も拓朗も若いから、やっぱり動けるわけよ。だから、それぞれと一緒に踊っているなかで、悔しいと思う瞬間もあるだろうなって思う。

藤田 うん、それもあるね。

近藤 10年前の俺らがマッハ2だとしたら、いまはマッハ1くらいの遅さになってきちゃってるわけ。ただ、体力がなくなった一方で、皆、ちゃんと進化を遂げてる感じはするんですよ。小林顕作を含めて馬鹿になれる度が高くなってると、古賀ちゃんなんかもさらに意欲的に向かってきてるし。普通なら年くって守りに入っていきそうなところだけど、そうしない。僕にとってはそれがすごく面白いなって思ってる。



藤田 それに経験を重ねてきて、僕らもシーンの作り方が上手くなってるといふもあるんじゃない? ここは何風味にしようとか、シーンごとにダンスに特色を持たせて、だんだんシフトさせていったりとか。

勝山 選曲に関しても、以前よりジャンル

の幅が広がってたり、照明とかも含めて味付けの自由度も増え、そういうものが上手く機能していているのかもしれない。

近藤 それは、現実的に皆のテクニックが上がっているっていうのが大きいよね。

—そして迎える2012年、公演タイトル『十二年の怒れる男』と付けたのはどういう理由からですか?

近藤 これ思いついた時、誰かにやられちゃう前に早いことやんないって思ったわけ。劇場もリニューアルしたし、一応始まりっていうのも意識して…ってこれは半分適当だけど(笑)。じつはメンバーが12人だった時、『十二人の怒れる男』でやろうという案が出たことがあったんだけど…。

勝山 その時は実現しなかったけど、いつかどこかで思ってたっていう、ね。

山本 これまでも、イメージが広がるようなタイトルにしようとは意識してる気がする。

近藤 じつは埼玉公演ではこれまでも結構大胆なことをやってきてるんだよ。全国に持って行くような作品では、どうしたってあそこまで思い切ったことはやれないから。

勝山 正直、埼玉だけの公演だからこそ、好きなことやっちゃえて気持ちもあって。

藤田 そう! 振り切れるんです。

近藤 劇場の設備も素晴らしいから、そこに頼ることもできるしね(笑)。

勝山 埼玉では、これまで床面でも結構遊んできてるんだよ。

近藤 グリーンっていうのもあったし、黒と白のツートンっていうのもあったし。

勝山 じゃあ、次はボーダーとか水玉とかにしますか?

藤田 草間彌生さんみたいな、ド派手なドット柄とかおもしろいんじゃないの?

近藤 ワハハ(笑)。それ、いいかもね。



コンドルズ 埼玉公演2012新作 『十二年の怒れる男』

日時：2012年1月28日(土) 開演14:00/19:00、29日(日) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 構成・映像・振付：近藤良平
出演(予定)：青田潤一、石淵聡、オクダサトシ、勝山康晴、鎌倉道彦、ぎたろー(新人)、古賀剛、小林顕作、スズキ拓朗(New Face)、田中たつろう、橋爪利博、平原慎太郎(FA)、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平
チケット(税込)：一般 前売4,500円/当日5,000円/学生2,500円
メンバーズ 前売4,100円/当日4,500円

2011年から2012年へ 心に寄り添うクラシック

今年の彩の国さいたま芸術劇場BCJ公演は、
〈ハレルヤ・コーラス〉で有名なヘンデルの《メサイア》。
604席の贅沢な空間で、BCJの紡ぐ崇高な響きを堪能できる。
そして、恒例の埼玉会館ニューイヤー・コンサートには、
華やかなウィーンの調べとともに新日本フィルハーモニーが初登場。
今年の締めくくり、そして2012年の始まりは、
清新な気持ちで音楽にひたろう。



Photo: 加藤英弘



MASAAKI SUZUKI

Bach Collegium Japan Händel: Messiah

Photo: Marco Borggreve



JUNICHI HIROKAMI



AI ICHIHARA



MIHO NAKAI

Saitama Hall New Year Concert 2012



Photo: K. Miura

パッサ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》

日時：12月23日(金・祝) 開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：鈴木雅明(指揮)、ミリアム・アラン(ソプラノ)、
クリント・ファン・デア・リンデ(アルト/カウンターテナー)、
ジェームズ・テイラー(テノール)、
ステファン・マクラウド(バス)

チケット(税込)：
一般 正面席8,000円/バルコニー席7,000円(学生3,000円)
メンバーズ 正面席7,500円

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2012 新日本フィルハーモニー交響楽団

広上淳一(指揮)
市原 愛(ソプラノ)
中井美穂(司会)

日時：2012年1月7日(土) 開演15:00
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：J.シュトラウスII：喜歌劇《こうもり》序曲
J.シュトラウスII：喜歌劇《こうもり》より
“侯爵様、あなたのようなお方は”※
J.シュトラウスII：浮気心
レハール：喜歌劇《ジュディッタ》より “唇に熱い口づけを”※
J.シュトラウスII：クラブフェンの森で
J.シュトラウスII：春の声※
J.シュトラウスII：美しく青きドナウ
ブラームス：ハンガリー舞曲第1番
ハチャトゥリヤン：《仮面舞踏会》より《ワルツ》
マスネ：タイスの瞑想曲
ラヴェル：ボレロ ※ソプラノ 市原 愛

チケット(税込)：
一般 S席5,000円/A席4,000円/B席3,000円(学生1,500円)
メンバーズ S席4,500円/A席3,600円/B席2,700円

文：片桐卓也 [音楽ライター]

節電の夏が終わり、秋の気配が街の中にも漂う時期になった。都心の百貨店ではお節料理の予約が始まったというし、そろそろ来年の手帳を準備しなければいけない。干支で言えば卯年から辰年へ。来年こそ、という期待はこれまでになく強く熱いものとなるだろう。

2011年は本当に音楽に励まされた1年だった。特に東日本大震災直後の数々のコンサートでは音楽の力をまざまざと感ずることが多かった。この年末年始にも数々のコンサートが行われるが、それもまた音楽の力を実感させてくれる演奏会であること

を祈りたい。また、聴き手である私もあらためて音楽の持つ意味を感じながら過ごしたいと思っている。

クリスマスの定番 ヘンデル《メサイア》

彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールでは、パッサ・コレギウム・ジャパン(BCJ)によるヘンデルの《メサイア》が演奏される。ヘンデルは18世紀のヨーロッパで活躍したが、それは珍しくあまり大きな戦乱の無かった時代だった。ロンドンではイタリア風のオペラが流行し、ヘンデルはその最先端で活躍していた。豊かで安定した時代で、ロンドンでは音楽が市民の間では欠

かせないものとなっていた。しかし、ヘンデルの人生は浮き沈みする。自作のオペラは次第に人気を失い、転機を迎える。そんな時期に書かれたのが大作オラトリオ《メサイア》だった。救世主(メサイア=メシア)の出現を祝う作品だが、新約聖書の中の福音書のテキストではなく、旧約聖書の「イザヤ書」や「詩篇」のテキストを使っているところが異色である。

今回のBCJの公演には海外から4人の歌手が参加する。いずれも海外の第一線で活躍する歌手で、アルト・パートをカウンターテナーのクリント・ファン・デア・リンデが歌うのは、作曲当時の演奏スタイルを再現するBCJらしい選択だ。またBCJの編成は小振りなので、彩の国の音楽ホー

ルにはぴったり。クリスマス・シーズンには定番となっている《メサイア》だが、今年はじっくりとヘンデルの傑作の世界を聴くために、ぜひこの素敵な空間での演奏を楽しんで頂きたい。

心励ますウィнна・ワルツ

続いては、こちらも恒例の埼玉会館(大ホール)での「ニューイヤー・コンサート」。今回は新日本フィルハーモニー交響楽団を広上淳一が指揮、ソプラノの市原 愛が加わり、中井美穂が司会を担当する。曲目はお馴染みのヨハン・シュトラウスII世の作品を中心に、レハール、ブラームスなどが並ぶ。加えてハチャトゥリヤンの《仮面舞踏

会》から《ワルツ》、そしてマスネの《タイスの瞑想曲》にラヴェルの《ボレロ》と盛りだくさんな内容となっている。

ウィнна・ワルツはレントラーという3拍子の舞曲から発達したと言われている。その最初のブームは1814年に開催されたウィーン会議の時だった。ナポレオンによる戦争がヨーロッパに様々な混乱をもたらした(ウィーンも占領された)、数多くの被害を作り出した。そのナポレオンが失脚した後で、新しいヨーロッパの安定を図る会議がハプスブルク家の本拠地ウィーンで行われた訳だ。おそらくレントラーやワルツの軽快な音楽は、戦争に疲れた人々の心を励ましたのだろう。それ以後ウィнна・ワルツはウィーンには欠かせない音楽となっ

ていく。
ソプラノの市原 愛は東京藝大、ミュンヘン音楽大学を卒業した後、ドイツを中心に活躍し、次代の歌姫として注目を集める存在。今回は《こうもり》《ジュディッタ》からのアリア、そして《春の声》でも素晴らしい声を聴かせてくれる。指揮の広上淳一に関しては多くを説明する必要はない。現在は京都市交響楽団の常任指揮者(08年~)として活躍しつつ、07年にはサイトウキネン・フェスティバルでサイトウキネン・オーケストラを指揮し、在京オーケストラへの客演も続けている。広上の指揮、新日本フィルハーモニー、市原 愛の素晴らしいアンサンブルによって、2012年の新たな扉を開けよう。



【Vol.3 & Vol.4】寺神戸 亮 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全曲演奏会

寺神戸 亮 10年ぶりの挑戦

日本を代表するバロック・ヴァイオリン奏者 寺神戸 亮さんが、ほぼ10年ぶりに《無伴奏》全曲に挑戦する。モダン・ヴァイオリンからバロック・ヴァイオリンへ、さらに近年ではバロック時代の低音弦楽器でもあるヴィオロンチェロ・ダ・スパッラにも傾倒し、常に新しい世界を取り込んでいる寺神戸さん。久しぶりの《無伴奏》への抱負をうかがった。

取材・文 = 加藤浩子 [音楽評論家] Photo: 横田敦史

——《無伴奏》全曲に挑まれるのは何回目ですか？

全曲を弾くのは3回目くらいでしょうか。バッハ没後250年の2000年に演奏会で弾き、直前に録音もしましたが、それ以来ですから10年ぶりくらいですね。

——ヴァイオリニストにとって、バッハの《無伴奏》とはどんな作品なのでしょう。

もうね、見ただけで緊張してしまいますよ(笑)。大変な作品ばかりなので。1曲弾くだけでも大変なのに、一度に3曲も弾か

なければならないんですから(笑)。

——寺神戸さんは以前、ドイツの作曲家による《無伴奏》の作品ばかりを集めた『シャコンヌへの道』というCDを制作なさいましたよね。あのなかでバッハの《無伴奏》をどう位置づけられていましたか？

バッハの《無伴奏》は、現代のヴァイオリニストにとって「聖書」のような作品です。けれど単独で存在しているのではなく、他の作曲家も同じようなことをやってきた、その長い伝統のなかから生まれたわ

けです。色々なスタイルがバッハのなかに流れ込んでいる。ドイツ・バロックの《無伴奏》作品の終着点ですね。

——バッハの作品が、他の作曲家の作品と違う点はどこですか？

緻密さ、ですね。そこが他の作曲家と完全に一線を画するところです。隙がなくて、だから演奏する方も緊張を強いられませんが、同時に絶対的に美しい。メロディが美しい。そこが素晴らしいですね。

バッハの音楽が「難しい」という印象を

持たれるとしたら、緻密さのためでしょう。演奏すること自体難しいですから、弾く方もどうしても一生懸命になってしまい、よけいまいじめな感じを与えてしまうのかもしれませんが。そういう作品が多いことはたしかです。

けれど、たとえば今回の曲目でいえば、《パルティータ第3番》はフランス風のギャラントなスタイル(注)で書かれています。また、短調で書かれていても悲しくない曲もある。色々なキャラクターの曲を書いているわけですね。《無伴奏》の6曲のソナタとパルティータにも色々な面がありますから、それをお見せできたらと思っています。

——今回の曲順はどうやって決められたのでしょうか。

各回、ソナタとパルティータを組み合わせて、音楽的なバラエティが出るように考えてみました。とくに最後の曲は、2曲とも大曲です。第2夜の最後に弾く《パルティータ第2番》は有名なシャコンヌで終わりますから、大トリ、という感じですよ。第1夜の最後に置いた《ソナタ第3番》はフーガが聴きものですから、そういう意味でメインに持ってきました。

——モダン楽器で弾かれていた頃とバロック・ヴァイオリンに変えられてからで、《無伴奏》の弾き方は変わりましたか？

モダン楽器の時は、とにかくフーガを弾くのには必死で(笑)。全部の音をりっぱに弾こうとしていましたからアグレッシブになり、弾き終えた時は頭がキーンとしていましたね(笑)。モダン楽器は音量が大きいですから。

バロック・ヴァイオリンでも、たとえば複数の弦を同時に鳴らすのが難しいのはモダンと同じです。けれど力まかせでないアプローチができる。対位法の弾き方などは文献にないので、最終的に自分でやり方を探さなければならないのですが、オランダで師事したシグスヴァルト・クイケンに教わった指使いや和音の弾き方などは参考になりました。

——一時ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ

に取り組んでいらっしゃいましたが、その経験は参考になりましたか？

低音楽器を弾きたいという願望が満たされたかなど(笑)。スパッラはバス楽器ですから、低音楽器の生理を理解できたことはヴァイオリンにも反映されていると思います。ヴァイオリンは高音楽器ですが、バスラインはありますから、下の音域であるG線を低音楽器を弾くつもりで弾けるようになりました。

《無伴奏ヴァイオリン》全体を見てみると、教育的な意図を感じます。《パルティータ第1番》にしても、幅広いテクニックの習得を目指している。それもすごく高度なテクニックです。他の作曲家の対位法とバッハの対位法との違いは、繰り返しになりますが緻密さですね。だから、いつも緊迫感があるのです。

——寺神戸さんは、《無伴奏》を弾く時、バッハの自筆譜のコピーを使われますね。

なるべく作曲家に近いソースを選んだ方が、作品を掴むことができます。幸いヴァイオリンの《無伴奏》には自筆譜が残っています。「原典版」として出ている「批判校訂譜」も素晴らしいものではありますが、どうしても校訂者の解釈が入ってしまう。バッハの自筆譜と向き合う方が、弾き手が解釈できる部分があって、自由になれるのです。

——人間としてのバッハは、どんな感じのひとだったと思われますか？



寺神戸 亮 てらかどりょう ●ヴァイオリン
デン・ハーグ王立音楽院にてS. クイケンの下で研鑽を積む。シャベル・ロワイヤル(フランス)、ラ・プティット・バンド(ベルギー)、バッハ・コレギウム・ジャパン(日本)など国内外の代表的な古楽器アンサンブルのコンサートマスターや、ソロ、室内楽、指揮と多彩な活動を展開している。古楽オーケストラ「レ・ボレアード」主宰。現在、デン・ハーグ王立音楽院教授、桐朋学園音楽大学特任教授。ベルギー、ブリュッセル在住。

すごく「熱い」ひとだったんじゃないか、と。エネルギーで、いつも動いている。作品からも感じますね。

《無伴奏》、そしてバッハの音楽の魅力を、いろいろな角度から解き明かしてくれる寺神戸さんのお話はとてもスリリングだった。バッハの自筆譜や、その妻のアンナ・マグダレーナの筆写譜を通じてバッハのメッセージを受け止められる、という話に、音楽家、そして人間バッハの「体温」を感じた。生き生きとした「バッハとの対話」が楽しみだ。

注 ギャラント様式：重厚、壮麗なバロック様式へのアンチテーゼとして起こった、フランスのロココ音楽を手本とする軽やかな音楽様式。

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「バッハとの対話」

【Vol.3 & Vol.4】寺神戸 亮 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全曲演奏会

Vol.3 / 2012年1月28日(土) 開演 14:00
 J. S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第1番 ト短調 BWV 1001
 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番 ホ長調 BWV 1006
 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番 ハ長調 BWV 1005

Vol.4 / 2012年1月29日(日) 開演 14:00
 J. S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第1番 口短調 BWV 1002
 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番 イ短調 BWV 1003
 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調 BWV 1004

会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 チケット(税込)：
 【シリーズ・セット券(Vol.1～Vol.5)】(12月9日までの販売)
 一般・メンバーズ：正面席16,000円/バルコニー席13,000円(学生7,500円)
 【Vol.3&Vol.4 通し券】一般・メンバーズ：正面席6,000円/バルコニー席5,000円(学生3,000円)
 【各1回券】一般：正面席4,000円/バルコニー席3,000円(学生1,500円)
 メンバーズ：正面席3,600円 ※Vol.1、Vol.2、Vol.5の公演日時・曲目等の詳細はP.26にて

この冬、さいたままで味わう 伝統芸能 狂言 邦楽 神楽

長い歴史に育まれた
数々の伝統芸能に触れてみませんか

Traditional Performing Art

◆ 新春狂言 600年の伝統を誇る笑いの芸術

人間国宝・野村万作とテレビや映画、現代劇でも活躍する野村萬斎が、6年ぶりに埼玉会館に登場!

〜狂言

歯切れのよい洗練された芸に、粋で洒落な味の加わった「江戸前狂言」——その流れを引き継ぐ代表的演者である人間国宝・野村万作。そして、国内外の能狂言はもとより、2012年秋公開映画『のぼうの城』をはじめ、現代劇（『ファウストの悲劇』演出：蛭川幸雄／2010年、『ベッジ・パードン』作・演出：三谷幸喜／2011年）やテレビでも活躍する野村萬斎が、2006年以来6年ぶりに埼玉会館に登場します。

室町時代に能とともに成立した、日本特有の伝統芸能「狂言」。能の多くが荘重・悲壮な内容であり、舞歌を中心とした幻想的・象徴的な劇であるのに対して、狂言はセリフとしぐさを中心とした写実劇・喜劇

的な対話劇。今回は中世の下克上の世相を描写・風刺し、現代にも通じる立場の逆転が笑いを誘う『昆布売』、博奕で負けつづきの博奕打が仁王に化けている姿がなんともおかしい『仁王』の2曲を、『仁王』の演者・石田幸雄による解説と共にお届けします。

また、公演前には「狂言講座」を開催。狂言を観るのが初めての方、狂言をもっと深く知りたい方に狂言の基礎や楽しみ方をわかりやすく解説します（能舞台で実際に狂言を体験することができる「狂言体験コーナー」参加者を募集）。600年以上も受け継がれてきた笑いの芸術「狂言」の妙技をこの機会にぜひご堪能ください。



『昆布売』



『仁王』 Photo: 吉越 研



縁 あって彩の国さいたま芸術劇場で初めて公演させて頂いたのは1995年10月、今回久しぶりに埼玉会館で公演いたしますことになりました。16年前に初めてご覧になった皆様も、さまざまな時間を積み重ねられたことでしょうか。狂言の中でも、さまざまな人生の積み重ねを見ることができます。狂言の和楽の世界をお楽しみ頂ければと存じます。初心者、大歓迎いたしますよ！——野村萬斎

新春狂言 万作・萬斎の世界

日時：2012年1月28日（土） 開演15:00
 ※13:00～（12:30開場・約1時間予定）高野和憲、月崎晴夫による狂言講座を開催いたします。
 1月28日公演のチケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。
 ※講座内の「狂言体験コーナー」参加者を募集します。詳しくはP.27にて。
 ※狂言講座終了後、公演準備が整うまで一旦客席よりご退場いただけます。
 会場：埼玉会館 大ホール 出演：野村万作、野村萬斎、石田幸雄、高野和憲、月崎晴夫 演目：『昆布売』『仁王』
 チケット（税込）：一般A席4,000円／B席3,000円（学生2,000円）
 メンバーズ A席3,600円／B席2,700円 ※S席は予定枚数終了

◆ 埼玉伝統芸能フェスティバル

日本の芸能の原点

〜埼玉の里神楽

神社のお祭りなどで、笛や太鼓の音とともに勇壮華麗に舞われる「神楽」。一般的には安泰と五穀豊稔を祈願・感謝して神に捧げる歌舞のことで、疫病退治・悪魔祓いとして行われるあの「獅子舞」も神楽のひとつ。神楽は日本全国に存在し、埼玉県でも、大宮住吉神楽（坂戸市）、玉敷神社神楽（加須市）、秩父神社附属神楽（秩父市）、鷲宮催馬楽神楽（久喜市）、貴布祢神社神楽（秩父市）、萩日吉神社太々神楽（ときがわ町）をはじめ、その土地に根付いたたくさんの神楽があります。

演者は仮面と装束を付け、笛、大拍子、大太鼓などの鳴り物にあわせて舞い踊ります。パントマイムによって物語を表現し、台詞がないかわりに、囃子が情景描写、心理描写の役割も果たします。演目は、『古事記』や『日本書紀』といった日本の神話を題材とするものが多く、今回のフェスティバルでは、『古事記』の題材から、天照大神の有名な神話『天岩戸開き』と、浦島太郎伝説と関わりが深いといわれる『山幸海幸交易』のふたつの座を上演します。また、神楽の上演のほか、秩父市の本町子ども太鼓教室による『秩父屋台囃子』の演奏や神楽のワークショップも行います。普段なかなか観ることのできない神楽を、この機会にぜひお楽しみください。



大宮住吉神楽保存会「山幸海幸交易の座」

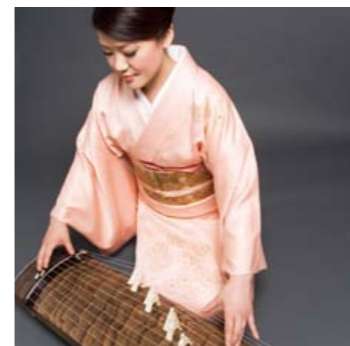
埼玉伝統芸能フェスティバル 〜埼玉の里神楽〜

日時：2012年1月22日（日） 開演13:00
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 ※入場無料（要事前申込み。詳細はP.27にて）
 出演：大宮住吉神楽保存会（坂戸市）、秩父神社神楽保存会（秩父市）、本町子ども太鼓教室（秩父市）
 演目：本町子ども太鼓教室「秩父屋台囃子」、秩父神社神楽保存会「第7座 天岩戸開き」、大宮住吉神楽保存会「山幸海幸交易の座」
 お問い合わせ：埼玉県文化振興課 TEL.048-830-2879
 主催：埼玉県、（公財）埼玉県芸術文化振興財団
 協力：坂戸市教育委員会、秩父市教育委員会

◆ 邦楽ガラ・コンサート 心に染み入る邦楽器の音色

〜箏・尺八・三味線

「邦楽」と言われて思いうかぶ代表的な楽器、箏や尺八や三味線（三絃）…。江戸時代に箏曲が整えられ、地歌に箏を合わせる試みから箏と三味線の合奏が普及し、さらに明治時代に入るとそれまで虚無僧のための楽器だった尺八が一般にも用いられるようになります。この尺八も加わっての箏・三味線・尺八の合奏を「三曲」といいます。それぞれの楽器のルーツは古いながらも、意外に新しい「邦楽」。これらの楽器を用いての新たな「現代邦楽」や、西洋楽器との共演など、今なお発展を続ける邦楽の魅力を伝えるため、「邦楽ガラ・コンサート」では、第一線で活躍する若手邦楽演奏家9人が一堂に会し、箏・尺八・三味線の多彩な響きをお贈りします。九州の地歌箏曲として伝承されてきた作曲家不詳の《尾上の松》、現代邦楽の先駆者の一人である牧野由多可作曲の三重奏曲《花舞》、江戸時代の箏曲家山田検校の代表作《熊野》といった名曲のほか、このコンサートのために作曲した、埼玉ゆかりの童謡をアレンジした合奏曲を演奏します。また、地域の子どもたちにも邦楽に触れていただこうと、11月から12月にかけて、この9人の演奏家が、埼玉県内の3地域（入間市、富士見市、川口市）の小・中学校を訪問演奏するほか、各市のホールでワークショップを実施します。邦楽器の味わい深い豊かな音色、名曲の数々をどうぞお楽しみください。



吉川由里子



藤井佐和



鈴木真為

Photo: 青木信二

平成23年度邦楽地域活性化事業 邦楽ガラ・コンサート ～伝えたい、日本の心～

日時：2012年2月4日（土） 開演14:00 会場：埼玉会館 小ホール
 出演：藤井佐和、武田旺山、中小路奈都子、吉川由里子、佐々井麻矢、平野寿里、鈴木真為、千葉暢、樋口千清代
 曲目：作曲家不詳：尾上の松 牧野由多可：花舞 山田検校：熊野 ほか
 チケット（税込）：全席自由500円 ※3歳未満のお子様は入場をご遠慮ください。
 お問い合わせ：埼玉県文化振興課 TEL.048-830-2879 主催：埼玉県、（公財）埼玉県芸術文化振興財団 共催：（財）地域創造
 後援：埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、川口市教育委員会、入間市教育委員会、富士見市教育委員会

彩の国シネマスタジオ
LINE UP 2011.12-2012.1

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール ※12月の「小津安二郎監督特集」は、熊谷会館で上映いたします。
【料金】大人一律1,000円 小中高生800円
※12月の「小津安二郎監督特集」、1月の「黒澤明監督特集」は、大人・小中高生とも1作品500円です。 ※当日支払いのみ。



©2010 See-Saw Films. All rights reserved.

『英国王のスピーチ』

スピーチできない男が、国王になった。幼い頃から吃音に悩む英国王ジョージ6世が、型破りのセラピストとの友情、強く優しい妻の愛情に支えられ、国民に愛される本当の王になるまでを描いた感動の実話。アカデミー賞作品賞・主演男優賞、脚本賞・監督賞、各国の映画賞を総ナメにした今年最高の話題作。

12月16日(金) 10:30/14:30/18:30
17日(土) 10:00/13:10/16:05/19:00 ※16日(金)14:30上映終了後、
18日(日) 10:00/13:10/16:05 映画評論家・石子 順氏によるアフタートークがあります。

監督=トム・フーパー
出演=コリン・ファース、ジェフリー・ラッシュ、ヘレナ・ボナム・カーター ほか
(2010年/イギリス・オーストラリア合作映画/118分)

熊谷会館上映会 12月 優秀映画鑑賞推進事業 小津安二郎監督特集

A.『麦秋』 B.『東京物語』 C.『彼岸花』 D.『秋刀魚の味』

～懐かしの映画を ワンコインで～ 親と子の関係、家族の絆、老いと死—。
巨匠・小津安二郎監督が、静かに語りかける珠玉の4作品。

12月20日(火) 10:30(B)/13:50(A)/17:00(D) 21日(水) 10:30(D)/13:20(B)/17:00(C)
※20日(火)10:30上映は、音声ガイドがつきます。イヤホン付FMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。
※21日(水)13:20上映終了後、日本大学芸術学部教授・田島良一氏によるアフタートークがあります。

『麦秋』出演=原 節子、笠 智衆、杉村春子 ほか (1951年/125分)
『東京物語』出演=原 節子、笠 智衆、東山千栄子 ほか (1953年/136分)
『彼岸花』出演=佐分利信、有馬稲子、山本富士子 ほか (1958年/118分)
『秋刀魚の味』出演=岩下志麻、笠 智衆、岡田茉莉子 ほか (1962年/113分)



A.『麦秋』

優秀映画鑑賞推進事業 黒澤 明監督特集

A.『酔いどれ天使』 B.『羅生門』 C.『生きる』 D.『天国と地獄』

～懐かしの映画を ワンコインで～ 人間の善と悪、生と老、大胆な構成と躍動感あふれる演出で魅了する
「世界のクロサワ」の傑作4作品。

1月6日(金) 11:00(B)/14:30(C)/18:30(A) ※6日(金)14:30上映終了後、
7日(土) 10:00(D)/13:30(B)/15:50(C)/19:00(A) 日本大学芸術学部教授・田島良一氏による
8日(日) 10:00(A)/13:00(D)/16:10(B)/18:30(C) アフタートークがあります。
9日(月・祝) 10:30(C)/14:00(A)/16:30(D)

『酔いどれ天使』出演=志村 喬、三船敏郎 ほか (1948年/98分) 『生きる』出演=志村 喬、小田切みき ほか (1952年/143分)
『羅生門』出演=三船敏郎、京マチ子、志村 喬、森 雅之 ほか 『天国と地獄』出演=三船敏郎、仲代達矢、山崎 努 ほか
(1950年/88分) (1963年/143分)

A.『こまどり姉妹がやってくる ヤァ!ヤァ!ヤァ!』
B.『大鹿村騒動記』

貧困を乗り越えスターとなった「こまどり姉妹」。しかしその人生は苦難の連続だった。「歌と涙と笑い」で乗り越えた半生を描いた感動音楽ドキュメンタリー「こまどり姉妹がやってくる ヤァ!ヤァ!ヤァ!」。そして今年7月に逝去した原田芳雄の遺作、長野県の大鹿村で300年以上も続く「村歌舞伎」を背景に人間味あふれる群像劇を描いた「大鹿村騒動記」。

1月27日(金) 10:30(A)/12:50(B)/15:15(A)/17:15(B)/19:50(A)
28日(土) 10:00(B)/12:40(A)/14:40(B)/17:05(A)/19:20(B)
29日(日) 10:00(A)/12:10(B)/15:15(A)/17:15(B)

※29日(日)12:10上映終了後、日本大学芸術学部教授・田島良一氏によるアフタートークがあります。



『こまどり姉妹がやってくる ヤァ!ヤァ!ヤァ!』
監督=片岡英子
出演=長内栄子、長内敏子
(2009年/日本/71分)
©2009 ALTAMIRA PICTURES,INC.



『大鹿村騒動記』
監督=阪本順治
出演=原田芳雄、大楠道代、岸部一徳 ほか
(2011年/日本/93分)
©2011『大鹿村騒動記』製作委員会

提携公演 第7回DMJ国際ダンス映画祭

2012年1月13日(金)～15日(日) 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

近年、ダンスと映像の関係がさまざまに試みられるなか、ビデオダンスというジャンルが注目され、製作するアーティストも増えてきました。DMJ国際ダンス映画祭は今回で7回目。舞台記録やプロモーションビデオとは異なる、映像作品のために作られたダンスを記録した、いわば「ダンスで構成された映画」を世界各国から公募。厳選の35作品を上映します。どうぞお楽しみに!

【公演に関するお問合せ】
Dance and Media Japan (公式HP: www.dance-media.com/ videodance/)
主催: Dance and Media Japan 提携: 彩の国さいたま芸術劇場

plan B director, Jasmin Ellis



Review 2011.9-10の彩の国のアーツ
2011.9-10



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 9月16日
埼玉会館ランチタイム・コンサート第15回
三浦一馬 バンドネオン・リサイタル

ランチタイム・コンサートに、弱冠18歳で国際ピアノコンクールに日本人初・史上最年少で準優勝を果たした1990年生まれの若きバンドネオン奏者 三浦一馬さんが登場。ピアニストのBABBOさんの息もぴったり。若々しくも情熱的なバンドネオンの響きによるオール・ピアノ・プログラムは満場の客席から拍手喝采を浴びました。



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 10月1日
小曾根 真の現在 Vol.2 ソロ

世界的ジャズピアニスト小曾根 真さんの「現在」を追求シリーズ第2弾。今回、演奏曲は当日決定。このシリーズのタイトル「小曾根 真の現在」のとおり、会場の雰囲気や聴衆とのコミュニケーションを通して、小曾根さんの瞬間のひらめきとともに、その空間を共有する人たち全員でつくる、興奮と一体感に充ちた一期一会のソロ・ライブとなりました。



Photo: 清田征剛

■ PLAY 10月1日～15日
彩の国シェイクスピア・シリーズ第24弾
『アントニーとクレオパトラ』

蜷川シェイクスピア常連の吉田鋼太郎さん演じるローマの武将アントニーと、宝塚退団後、ストレートプレイ初挑戦の安蘭けいさん演じるクレオパトラの恋愛を軸に、舞台はローマ・エジプト・ギリシャを駆け巡る。場所の転換が分かりやすいセット、そして、恋愛、嫉妬、打算、裏切り、後悔——シェイクスピアが描く人間心理の機微を役者陣が熟演。



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 10月15日
小菅 優の現在 Vol.3 ピアノ・リサイタル

若手ながら国際的に活躍する小菅 優さんの「現在」を追求シリーズ最終回。ストーリー性のあるものに幼少から惹かれてきたという自身の原点に立ち戻り、シューマンとリストの作品から物語を感じさせると同時に作曲家の人生が語られているパーソナルな曲をプログラミング。聴衆の想像力もおおいに刺激するイマジネーション豊かな演奏で客席を魅了しました。

EVENT CALENDAR

2011.11.15 - 2012.1.31

11 November	
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水
31	木
12 December	
1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火

21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土
1 January	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月
31	火

3才以上のお子さんから楽しんでもらえる公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報 (～2012.1.15)

PLAY さいたまネクスト・シアター第3回公演
『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』

チケット発売日
一般：11月26日(土) メンバース：11月20日(日) ※公演詳細はP.8～9にて

PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』

チケット発売日
一般：12月3日(土) メンバース：11月26日(土) ※公演詳細はP.10～12にて

MUSIC 諏訪内晶子
ヴァイオリン・リサイタル



photo:Leslie Kee

諏訪内晶子が4年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場に登場！
名手ゴランと共に奏でる魂の響きを604席の音楽ホールで。

チケット発売日
一般：11月27日(日)
メンバース：11月23日(水・祝)

日時=2012年4月24日(火) 開演19:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 出演=イタマール・ゴラン(ピアノ)
曲目=ファリャ：スペイン民謡組曲
エネスコ：ヴァイオリン・ソナタ第3番「ルーミアの民俗様式」ほか
チケット(税込)=一般：正面席7,500円/バルコニー席6,000円(学生2,500円)
メンバース：正面席7,000円

MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート

第17回 通崎睦美の世界
～よみがえる平岡養一の木琴～

今回は木琴奏者の通崎睦美が登場。
往年の国民的音楽家 平岡養一から譲り受けた愛器で
木琴の魅力をたっぷりとお届けします。

チケット発売日
一般：12月11日(日) メンバース：12月10日(土)
日時=2012年3月22日(木) 開演12:10 会場=埼玉会館 大ホール
曲目=クライスラー：ペートルヴェーの主題によるロンディーン ほか
チケット(税込)=全席指定1,000円



photo:平野愛

MUSIC レ・ヴァン・フランセ

絶大な人気を誇る超一流のソリストたちで
結成された夢のアンサンブル・グループ、
彩の国に再び登場！

チケット発売日
一般：12月17日(土)

メンバース：12月10日(土)

日時=2012年4月21日(土) 開演15:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目=ブランク：六重奏曲
モーツァルト：ピアノ五重奏曲 KV452 ほか
チケット(税込)=
一般：正面席5,000円/バルコニー席4,000円(学生2,000円)
メンバース：正面席4,500円



photo:加藤英弘

MUSIC

NHK交響楽団
井上道義(指揮)
オリヴィエ・シャルリエ(ヴァイオリン)



photo:Benjamin Lee

恒例の埼玉会館N響公演。
今回はオケの信頼篤い井上道義のタクトで
ベートーヴェンの名曲プログラムを。

チケット発売日
一般：12月23日(金・祝)
メンバース：12月17日(土)

日時=2012年6月24日(日) 開演16:00 ※指揮者によるプレコンサート・トークあり
会場=埼玉会館 大ホール
曲目=ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61、
交響曲第6番 へ長調 作品68「田園」
チケット(税込)=一般：S席6,500円/A席5,500円/B席4,500円(学生2,000円)
メンバース：S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円

PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾
『シンペリン』

チケット発売日
一般：2012年1月14日(土) メンバース：2012年1月7日(土)
※メンバースの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。
※公演詳細はP.13にて

【チケットの購入方法について】

インターネット

SAF [SAF オンラインチケット]で、発売
初日10:00から公演前日23:59まで
受付いたします。
トップページの「チケット購入」からお進みください。
[PC・スマートフォン] http://www.saf.or.jp/
[携帯] http://www.saf.or.jp/mobile/

〈クレジットカード決済→コンビニ発券〉
※チケット代のほかに、[チケット一枚につき]システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。
〈コンビニ支払い→コンビニ発券〉
※チケット代のほかに、[お支払い1件につき]振込手数料210円(代金合計3万円以上は410円)、[チケット1枚につき]システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

電話予約

チケットセンター
0570-064-939
10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

〈クレジットカード決済→宅配便で配送〉
※チケット代のほかに、[配送1件につき]配送料300円が必要です。
〈コンビニ支払い→コンビニ発券〉
※チケット代のほかに、[お支払い1件につき]振込手数料210円(代金合計3万円以上は410円)、[チケット1枚につき]システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。
電話予約したチケットの引取もできます
■ 彩の国さいたま芸術劇場(10:00～19:00)
■ 埼玉会館(10:00～19:00)
■ 熊谷会館(10:00～17:00)
※休館日をお確かめの上ご来場ください。

現金もしくはクレジットカード決済、
その場でチケットをお渡しします。
手数料はかかりません。

財団メンバーズのお客さまは、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

TICKET

■サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行
(株)バンフィックアートセンター／(株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス(株)／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや
森平舞台機構(株)／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル
(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／埼玉スバル自動車(株)／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所
(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／不動開発(株)／ピストロ やま／埼玉県信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ
(有)プラネット／関東自動車(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／(株)中島運輸／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／丸美屋食品工業(株)／ポラスグループ
ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)ウイズネット
サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房
(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)総合舞台／(株)タクトコーポレーション／広総業(株)／(財)さいたま住宅検査センター／(株)コマーム／相川 宗一
(株)国大セミナー／(株)NEWSエンターテインメント／(株)オーガス／イープラス／六三四堂印刷(株)／医療法人 櫻会 林整形外科

H23.10.15現在／一部未掲載

[問合せ先] (公財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2011.11-12